

2025 年 10 月 24 日

キヤノン電子株式会社

2025年12月期-第3四半期決算説明会 質疑応答まとめ

開催日時：2025 年 10 月 24 日 15:45～16:25

Q1. 第3四半期の実績をどのように評価していますか。

A1. 為替影響がマイナスとなっているほか、原価高騰の販売価格への転嫁は若干遅れています。また、ドキュメントスキャナーに関しては米国市場において中高速機の販売が伸びず、業績はマイナスとなっています。カメラ関連部品に関しては好調を維持していますが、上記の要因によって業績目標に対して若干の遅れが出ています。これらを第4四半期に挽回すべく対策していきます。

Q2. 第3四半期までの結果を受けて第4四半期の見通しを教えてください

A2. コンポーネントセグメントにおいて、カメラ関連部品は引き続き好調を維持しています。また、ベトナムでのプリンター関連ユニットの利益改善を見込んでいます。電子情報機器セグメントのレーザープリンターは新製品の立上げにより、回復を見込んでいます。また、ドキュメントスキャナーでは米国市場での挽回を進め、利益改善を想定しています。

Q3. 第3四半期までの実勢為替レートおよび第4四半期の想定為替レートを教えてください。

A3. 2025年第3四半期の為替レートは 148.08 円/USD、165.69 円/EUR です。第4四半期の想定為替レートは 150.00 円/USD、175.00 円/EUR です。

Q4. 衛星事業に関して現状を教えてください。

A4. 多軌道観測実証衛星の製造・試験は2026年3月納品に向けて順調に進行しています。また、当該衛星の打上げ支援・初期運用は来年度の収益を見込んでいます。

Q5. カメラ関連が好調とありますが、業界統計等を見ると第3四半期に入って失速感がみられます。キヤノン電子の第3四半期において、減速の兆候が見られていますか。

A5. 当社グループはシャッター・絞リユニット等をキヤノン向けに限らず、他社にも販売しておりますが、第3四半期でも特に数字の落ち込みはありません。

Q6. 国内では防衛費の増額が議論に上がっていますが、キヤノン電子の衛星ビジネスとしてどのような期待をお持ちか教えてください。

A6. 直接の影響を予想するのは難しいところですが、外部環境が事業の後押しとなっている状況と捉えています。官需だけでなく、民間利用も想定して積極的にアプローチしていきたいと考えています。

Q7. 営業利益分析について、数量・構成変化の影響が第3四半期でマイナスとなっていますが、内容およびプロダクトミックスの影響を受けているセグメントについて教えてください。また、4Qで新製品の立ち上げにより利益改善が見込めるとの話がありましたが、どのセグメントになりますか。

A7. 数量減については、主にスキャナーユニットで、コンポーネントセグメントになります。中国での市場縮小、米国での関税対策等により販売数が減少しています。プロダクトミックスにより利益が悪化しているセグメントは、電子情報機器となります。主にドキュメントスキャナーについて米国・欧州で中高速機販売が低調なことが利益減少要因となっています。また、新製品の立上げは電子情報機器セグメントのレーザープリンターとなります。

Q8. キヤノンではLED方式の複合機を取り入れていくとの話がありましたが、御社における中長期的な考えをお聞かせください。

A8. 複合機の主に中高速機タイプにおいて、レーザースキャナーユニットに替わってLED方式が採用されることになっていくと想定されます。新規事業拡大により売上利益をカバーしていく計画です。
